

育児休業に関する体験記 10

30代 31日間取得

①家事・育児について

1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか

授乳・出産院への通院以外の家事や育児は、できるだけ担当するように計画を立てて行動した。帝王切開であるため、子どものおむつ交換や入浴などの体力を使う作業は積極的に行うようにした。

2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について

休日の育児に限らず、平日は終業後にできるだけ寝かしつけや粉ミルクの授乳・家事などを行うようにしている。平日の帰りが遅い日は部屋掃除や洗濯などをして、夜・朝方の授乳時間に粉ミルクを与えるようにしている。育児中の経験が生かされていると思う。

(妻 記載欄)休業取得者の家事・育児の参画の状況について

育児・家事では協力してもらったため、赤ちゃんの育児に専念することができた。今後もこのような制度は積極的に利用してもらいたいと思います。

②仕事について

1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか

普段からPC内のデータ整理をしており、誰が見ても作業の修正などを行えるようにしている。

育児休業前にはデータ整理を徹底したためスムーズに育児休業取得ができた。

2. 評価・反省

会社の皆様の協力があり無事に育児休業を取得することができた。仕事復帰時にはスムーズに仕事に取り掛かることができた。案件の修正などを他の人が行う場合を想定して、普段からクライアントごとにフォルダー整理を徹底したほうが良い。

③自由記述

妊娠生活を間近で見ている時に、妻一人での育児は難しいことを感じました。さらには、出産後、妻の体への負担や家事の難しさ、乳幼児の世話などを想像し出産前から夫婦で不安を感じていました。そのため育児には妻一人ではなく支えが必要だと感じ、育児休業を取得することを希望しました。

会社に早い段階から相談に乗っていただいた甲斐もあり、周りの目を気にすることなくスムーズに育児休業を取得することができました。育児休業に不慣れな育児・家事を行う中で、2つを両立するのは大変だと感じました。家事と言っても、炊事・洗濯・掃除に加え買い物へ出かけるなど、やることは多く大変でした。育児に関しても母乳と粉ミルク混合であるため、各時間ごとにミルクを与えたり、あやしたりを家事の合間に行わなければいけません。寝るのを見計らって、買い物に出かけることも度々ありました。コロナ禍であったため、菌を家に持ち込まないよう気を配り、衛生を保って行動しなければならず、徹底した自己管理に加え、乳児の体調管理（湿度・温度への気配り）をしながらの生活は大変でした。

もし育児休業の制度がなかった場合、このような生活は成り立つことはないと考えました。コロナ禍で頼れる人もいない中、母親一人で育児と家事の両方を行うことは不可能です。人口減少・高齢化社会に加えて未知の感染症が重なり、周囲の人たちが子どもを見てくれる環境もありませんでした。珍しかった“男性の育休取得”は令和の時代には必須のものになっていくと思います。

初めての育児経験は忙しく、育児休業1ヶ月はあっという間で、子どもの成長を身近に感じることができました。

この育児休業の経験は今後も育児・家事を協力する大きなきっかけになったと思います。